

新たなるスタート・サンエスブリーディング

(株)サンエスブリーディング 代表取締役 秦 政 弘

21世紀へのカウントダウンも目の前となり、あわただしい日々が続きます。今年も、連日のように市販食品物への異物混入の問題がニュースになりました。食品衛生の重要性を痛感すると共にSPF状態を維持するためには、わずかな可能性の疾病汚染要因でも可能な限り排除するのだと気を引き締めております。

末永くSPF種豚のブリーダーであるために。

設立の経緯

株式会社サンエスブリーディングは、平成12年8月1日に発足したSPF種豚を生産供給する会社です。SPF豚のパイオニアとして長年の間高い評価を得ておりました住商飼料畜産(株)の種豚生産部門を引き継ぎ、清水港飼料(株)と住友商事(株)の共同出資による合弁会社としてスタート致しました。

清水港飼料(株)は、これまでもSPF豚専用飼料の製造およびSPF豚CM認定農場(マルス農場、富士畜産など)を経営しSPF豚に関わって参りましたが、今後は種豚の生産改良も含めて総合的にSPF豚に携わっていきます。

社名のサンエスとは、清水港(Shimizukou)飼料のS、住友(Sumitomo)商事のS、SPFのSと、3つのSに由来しています。

会社組織

新会社の体制がはっきりするまで時間がかかり、住畜時代からのお客様には特に御心配をおかけし

ましたが、8月から以下の体制で臨んでいます。

本社：千葉県船橋市栄町2丁目4番9号

GGP農場：栃木県今市市大渡船場

GP農場：宮城県伊具郡丸森町字峠上2番1

サンエスジーンバンク丸森：同上

衛生検査センター：栃木県今市市土沢710番4号

本社は、清水港飼料(株)船橋工場に隣接しており、主として営業活動を行います。

GGP農場では、D、W、Lの3品種約180頭の母豚を飼養し、原種豚の維持改良に努めます。

丸森農場では、約800頭の母豚を飼養し種豚生産を行います。住畜時代と異なり九州農場はありませんので、東北、関東、中部地区を主として種豚供給を行っていきませんが、サンエスジーンバンク丸森からのD種A1用精液は国内全般へ供給していきます。

衛生検査センターでは、プライマリーSPF豚の作出手術を行います。また、各種疾病検査およびサンエス・ピラミッドのSPF豚農場認定作業を行っていきます。

安全・安心・おいしい豚肉

小社の目指すものは、“生産者と一体となって、安全・安心・おいしい豚肉をつくり消費者に喜んでもらうこと”です。小社の前身である住商飼料畜産のSPF肉豚は、テーブルミートとしての用途を目的としていました。住畜SPF肉豚は、肉質の点で淡く光沢があり、きめは細かく、しまり、保水性に優れており、東京食肉市場、横浜食肉市

場等各市場および顧客に高い評価を得ておりました。もちろん、サンエスブリーディングもその精神には同感で、種豚生産および改良については、肉質および生産性に重点を置いていきます。

それと共に、当然の事ながらSPF状態・清浄度を維持していきます。近年、新しい豚の病気として、PMWS（離乳後多臓器発育不全症候群）やPDNS（豚皮膚炎腎障害症候群）などが話題になっております。これらの新しい病気では、他の豚病と鑑別できる検査法は確立されていません。

農場のバイオセキュリティを徹底強化するしかなく、冒頭でも述べましたように、わずかな可能性の疾病汚染要因でも可能な限り排除していく精神こそが肝要であると思います。

なお、種豚の供給に対しましてもお客様に今まで以上、安心して頂けますよう新たなGP農場の建設も計画しております。

種豚の改良目標

SPF豚生産ピラミッドの頂点に位置するプライマリー豚は、その影響力が非常に大きいことから、その素豚（オペ母豚）の選定がとても重要で

あり以下の点に留意します。

- ①系統、能力（繁殖、産肉など）が判明している優秀なもの。
- ②肢蹄が丈夫で、乳器生殖器、胴の伸び、肋張りの良いもの。
- ③不良遺伝形質（PSS、ヘルニア、悪癖など）のないもの。
- ④AD、PRRS、トキソプラズマ病などは当然フリーで臨床的にも異常が無く健康なもの。

以上の点に留意したプライマリー豚を頂点として、GGP豚およびGP豚を増殖していきます。

そして、生産者の皆様に供給する種豚は、足腰が強く連産性のある種豚、肉質および枝肉形質のすぐれた種豚、繁殖性の高い種豚、これらのことを常に念頭に置き改良目標として掲げます。

サンエスのSが、Superior（すぐれたの意）SPF Swine の3Sであると言われるような種豚を供給し、国内生産者が21世紀にも生き残れる養豚作りを目指し、全社員一丸となって粉骨砕身努力していきますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。